

TakeOutして
夜景を見ながら
夜ピクニックは
オススメ！



豊島区の新しい公園

雑司が谷公園&イケ・サンパーク

2020年、豊島区に新しい2つの公園が開園しました。1つは東池袋の「イケ・サンパーク」、もう1つは雑司が谷の「雑司が谷公園」です。共通するのは地域に根差していること。どのような公園なのでしょうか？

みんな

誰よりも池袋を愛するさすらいの池袋ブロガー。地域ブログポータルサイト「みんな池袋開拓史」(HP:ikebukuro.areablog.jp/mintan)で、グルメやイベント、街づくりなどタウン情報を発信中！

豊島区最大の公園 イケ・サンパーク

サンシャインシティの東側に隣接する「としまみどりの防災公園（愛称IKE・SUNPARKイケ・サンパーク）」は、造幣局東京支局の移転に伴い跡地利用として誕生した公園です。豊島区最大の公園（17,000m²）はその名通り防災機能が備わっており、非常時にはヘリポート、周囲はシラカシ・ヤマモモなど燃えにくい木が植樹されており、備蓄倉庫や非常用トイレが整備されています。敷地内には近日オープン予定のカフェが併設、IKEBUS（イケバス）と同じ水戸岡锐治氏デザインの「としまキッズパーク」も。キッズパークはイケバスと同じ「池袋レッド」に彩られ、園内ドッグトレインも運行予定。楽しめですね。

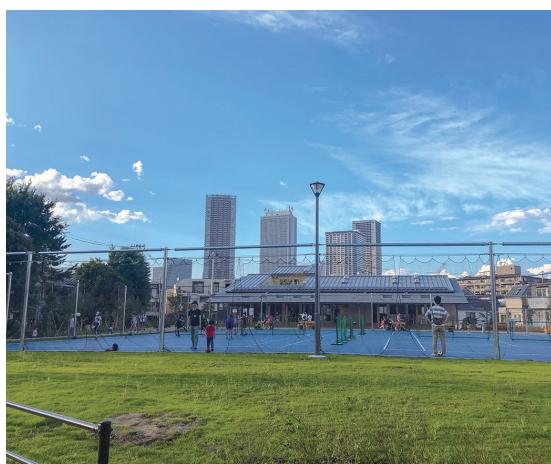
「ミユニティガーデン」では花や野菜を育てることも可能。都市での自給を目指しています。園内は天然芝が広がり、子ども達が虫取り網を持って走っています。早朝のジョギングや暑い昼間を避けて夜に犬の散歩をする人など、憩いの場となっています。



造幣局のマンホールは野外テーブルに——イケ・サンパーク



解放感のある広い芝生——イケ・サンパーク



サンシャイン方面が一望——雑司が谷公園



噴水は子ども達に大人気——雑司が谷公園

公園のあるくらし
地域の人々が憩う場所へ

芝生のはらっぱやどんどんぐりの林、噴水広場、遊具がそろったこどもひろば、ボルダリングなど子ども達が遊べる場所がいっぱい！中でも、ボールひろばは地域の子ども達がフットサルをしたり、大人们がテニスをするなど人気。区の貸出施設ですが、平日には保育園での利用や時間帯によっては一般開放もしています。この辺りではボール遊びが出来る施設は貴重です。丘の上テラスの庇

住宅地が広がる雑司が谷地区に誕生した「雑司が谷公園」は小中学校の統廃合により閉校となつた高田小跡地と隣接する公園を統合して作られました。敷地内にある丘の上テラスは地域の「ミニユニティ」と防災の拠点となるよう、集会室、防音室、屋上テラス、防災倉庫、災害時用トイレなどが備わっています。園内の花壇には公園工事が始まる前に採集した小学校内の野草が植えられ大切に育てられています。かつてこの辺りで育てられていましたという伝統野菜「雑司が谷ナス」の苗もありました。

芝生のはらっぱやどんどんぐりの林、噴水広場、遊具がそろつたこどもひろば、ボルダリングなど子ども達が遊べる場所がいっぱい！中でも、ボールひろばは地域の子ども達がフットサルをしたり、大人们がテニスをするなど人気。区の貸出施設ですが、平日には保育園での利用や時間帯によっては一般開放もしています。この辺りではボール遊びが出来る施設は貴重です。丘の上テラスの庇

2つの公園は整備が決定した当初、それぞれ地域住民を交えて公園づくりワークショップを行われました。みんなは2013年（雑司が谷公園）、2015年（イケ・サンパーク）に参加しました。記憶をたどると、地域の人達のこんな公園が欲しい！という熱い思いは少なからず反映されています。旧造幣局のマンホールはワークシヨップで現地見学をした際にこの地のルーツを残したいと話題に

街として、イベントも開催し集客が出来る南池袋公園のような魅力的な公園もいいですが、日常生活にかかせない住民のための公園、「ハレ（非日常）」と「ケ（日常）」なら「ケ」に当たる公園が必要では？と思つていました。新型コロナウイルスに備えた「新しい生活様式」を求められる今、住民にとって都会にありながら空が広く望め、身近に利用し健康を維持できる公園の必要性を強く感じます。都内でも住民1人当たりの公園面積がワースト1の豊島区だからこそ、2つの公園は住民のための公園であり続けて欲しいと思います。